



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇鈴木有郷先生ご夫妻からのご挨拶◇

日米合同教会の皆様：7月24日には私たちのために暖かい歓送会を開いてくださり、本当に有り難うございました。この5年間、皆様と共にクリスチャンとして歩んできた道のりを振り返り、キリストに連なる喜びをあらためて心に刻むことができました。◆9月の中頃から私たちはニュージャージー州のペンサーケンという町に住むことにしています。ニューヨークにはいろいろな機会に戻る予定ですので、皆様と旧交を暖める機会も多いことと思います。◆これから日米合同教会が、そして皆様一人一人がこのニューヨークの地で地の塩、世の光として生きていかれんことを心からお祈りいたします。 鈴木有郷・エリザベス (5143 Elvena Avenue, Pennsauken, NJ 08109, Tel: 410-688-1455)

* 鈴木先生が7月末を以って牧師職を引退されましたので、月報今月号には牧師メッセージはありません。礼拝メッセージには、鈴木先生が7月の礼拝で話された説教を掲載します。また、鈴木エリザベス姉が6月に書いて下さった英語讃美歌集紹介の文も載せております。この記事は、春にエリザベス姉が開かれた賛美歌ワークショップでのお話に基づいております。

◇日曜礼拝説教より◇

■「道、風、太陽、そして雨」**マタイ福音書5章13節—16節**
私たち人間の心の中に浮かび上がる最も重要な問い、それは「人生の究極的な目的は何か？」であるに違いありません。この問いにイエスは明白に答えておられます。「あなたは地の塩、世の光である」。私たちはイエスによって地の塩として、世の光として召し出されている。そう確信し、告白する私たちにとって、イエスはどのような存在なのでしょう。◆イエスは私たちが常に歩むべき道です。聖書に登場するイエスに魂を捉えられた人々の何人かを思い出してみましょ。彼らはすべて人生の途上であって、にっちもさっちもいなくなつた人たちです。ガリラヤ湖の漁師達は、魚がとれなければその日は絶食を余儀なくされました。収税人は一人の友達もいませんでした。一人の女性は、不倫の場に踏み込まれて、もう少しで村の広場で石打ちの刑に処せられるところでした。一人の足腰の立たない男性は、ベセスタの池のほ

とりで18年間も呻吟していたのです。この人々にイエスは歩み寄り、彼は倒れている人を抱き起こし、死刑にされそうになった女性を赦し、収税人の友達になりました。イエスは彼ら一人一人に希望を与え、人間としての尊厳を取り戻させたのです。その意味で、イエスは彼らの前に開かれた道でした。今日イエスは私たちの歩むべき道として私たちの前にそそり立たれます。弱った人に力を与え、鷲のように翼を張って上ることを可能にされます。イエスの道を歩むこと、これが地の塩として生き、世の光として存在することです。◆道としてのイエスは、同時に清々しい神のそよ風でもあります。キリスト者の人生はパラ色の人生ではありません。パウロ、ペテロ、マルチン・ルーサー・キング牧師、マザー・テレサ、賀川豊彦を見ればそれは明らかです。脅迫、迫害、死に直面しつつも、彼らはイエスの平安という風を背中に受けることによって生き返り、人間らしく生き生きと生きることができたのです。彼らにとって、イエスはいかなるこの世の力も打ち消すことのできない安らぎをもたらしたのです。イエスは私たちにとっても神のそよ風です。イエスの風を背中に受けてこそ、私たちはこの愛の欠落した世界に身を置きながら、他者に慈しみの眼差しを向けることができるのです。自己の正しさを声高に主張する世の風潮の直中に生きながら、悔い改めることができるのです。イエスの風に背中を押されて生きる、これが地の塩、世の光として生きることでもあります。◆しかしそれだけではありません。詩編の詩人は記しています。「神の義は朝空に上る太陽。冷えきつた暗い野原に暖かさをもたらす力」。私たちクリスチャンにとって、イエスこそ神の義の体現、朝空に上る太陽です。私たちは太陽であるイエスがまぶしくて、思わず顔を背けてしまうことがあります。例えば、聖書の価値観よりもこの世の見方を重んじてしまう時、他者を心の痛みを無視してしまうような時です。しかし、イエスはそのような私たちを放っておかれません。私たちを、眠りから覚めよと揺り動かされます。神の義を仰ぎ見よと私たちの良心に語りかけて飽きることがありません。冷たく冷えきつた荒れ野を羊が草を食む牧場に変えてくださいます。その意味でイエスは朝空に上る太陽です。この真実を心に刻んで生きる、これが地の塩、世の光として生きることでもあります。◆イエスは太陽であると同時に、濁った田畑をうるおす雨でもあります。詩編の詩人の言葉です。「神の恵みは渴ききつた田畑をしとしとうるおす雨」。私たちの魂が冷えきり、渴ききつた時、イエスは決して渴いたままにはされません。見捨てられることはありません。イエスは私たちの魂に新しい命を吹き込まれます。イエスによって新しくされ、潤され、常に生き直すこと、これこそ地の塩、世の光として生きることであるに違いありません。イエスは道として私たちの前に現れます。朝風として私たちの前に現れます。輝く太陽として、そして田畑を潤す雨として現れます。◆このイエスが私たちに「地の塩をして生きよ、世の光として生きよ」と呼びかけておられるのです。これ以上の恵みがあるでしょうか。これ以上の喜

日米合同教会月報73巻2011年9月号

びがあるでしょうか。ですから、信仰の同志である皆さん、「願わくは、あなたの前に歩むべき道が常に開かれるように。風があなたの背中を優しく押すように。太陽があなたの顔を暖かく照らすように。雨があなたの田畑をしとしと潤すように。そしてまた会う日まで、願わくは慈しみの神が、あなたをしっかりとその御手の中に置き給い、あなたに平安を賜るように。」

◇教会活動報告・スケジュール◇

■**鈴木先生ご夫妻の送別会** 鈴木有郷先生並びに奥様のエリザベス姉の5年間にわたるご奉仕に感謝する送別会が、7月24日(日)午後教会で行なわれ、約100名が出席しました。教会員を代表して丸橋ダウンズ理加姉、富樫素美姉、鈴木智子姉等が先生の牧会生活をふりかえるスピーチを述べた後、聖歌隊の時田都姉、野口順子姉が音楽ディレクターとして奉仕して下さったエリザベス姉に対する感謝の言葉を述べ、ヘンデル作曲の「Holy Art Thou」を合唱しました(この曲は、エリザベス姉並びに聖歌隊メンバーにとって一番お気に入りとのこと)。その後先生ご夫妻からスピーチがありましたが、先生は「話すべきことはもう様々な場で話してしまったので、代わりに歌を歌いましょう」と、「鈴懸の道」を独唱で歌われました。その後、参加者一同による「Irish Blessing」合唱により会を終えました。◆先生ご夫妻への感謝ギフトとして、牧会活動の写真収めたフレーム2点、教会員からのメッセージを掲載したスクラップブック3冊、御食事券が贈呈されました。コーディネーター役の日下部ディーン兄・吉田ジェリ姉、その他お手伝いして下さった皆様に感謝します。

■**秋のゲストスピーカー牧師一覧** 9月・10月の日曜礼拝でゲストスピーカーとしてお話しして下さる牧師先生は下記の通りです。9月4日並びに11日: 山本アンドリュー先生(イザベラ礼拝含む)、9月18日: 石井孝之先生、9月25日: 岡田圭先生、10月2日: 石井孝之先生、(10月9日: 愛修会のためJAUCでは礼拝なし)、10月16日: テリノ尊子先生、10月23日: 木戸ブライアン先生です。なお、8月7日並びに21日の礼拝は鈴木有郷先生がゲストスピーカーとしていらして下さり、8月14日は、本郷ランディー先生・ゲイ先生・アンドリュー先生ご一家による音楽礼拝となりました。8月28日の礼拝には古屋安雄先生が来られる予定でしたが、ハリケーンのため礼拝を行えませんでした。

■**新牧師招聘に向けて** 理事会の牧師招聘チームは新牧師招聘に向けて、フルタイム牧師の職務内容をまとめ、その他必要書類を用意して教団の方々と今後のステップを確認中です。

■**新音楽ディレクター** 新しい音楽ディレクターとして、8月1日から相田尚子姉が奉仕して下さっています。木曜日の聖歌隊練習(午後6時半-8時半)も、9月第1週より再開されます。クリスチャンでない方でも興味がある方は歓迎です。

■**子供夏期キャンプ** SMJ (Special Ministry to the Japanese) 主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が7月10日から22日までシェルター島で行われ、子供22名、大人7名が参加しました。JAUCからは相田もえちゃん、石神慎也君の2人がキャンパーとして、また相田尚子姉、佐藤美由紀姉がカウンセラーとして行かれました。釣り、ロケット作り、工作、ブルーベリー農場訪問など、子供達は楽しい日々を過ごしたとのこと、慎也君はキャンプでの教材を大切に抱えてブルガリアへ行かれたそうです。

■**秋のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」の秋期セッションが9月14日から始まります。毎週水曜日の午後7時から、11月23日まで合計13セッションが予定されています。詳細は丸橋ダウンズ理加姉まで。

■**礼拝委員会より** 礼拝堂の正面テーブル、説教台、聖書朗読台に赤、白、緑の旗がありますが、これはパーラメントといって教会暦に沿って取り替えられます。以前のは長年の使用のため色あせておりましたが、このたび鈴木エリザベス姉と時田都姉の尊いご寄付により3つの旗が新しく作られました。感謝です。また昨年末、原登美枝姉から礼拝のために献金を頂いておりました。感謝のお知らせが遅れまして失礼いたしました。

■**財務報告** 7月末の時点で、今年度の通常献金総額は3万1656ドル70セント、その他の献金は1万9998ドル41セントです。利子その他を含めた今年度の収入は現在10万2412ドル37セント、支出は10万4469ドル9セントになります。なお今年の建物修理の為の支出額は現在6万6161ドル11セントです。

■**出版計画** 鈴木先生の説教集を教文館より出版しようとの計画が有志の間であります。費用は日本円で140万円と見積もられます。ご協力頂けます方はJAUC宛にチェック(メモ欄に「鈴木先生説教集」と明記)をお寄せ下さい。詳細はバウマン姉迄。

■**訂正** 先月号に掲載した2011/2012年度のジャスティン春山スカラシップ受給生のリストに間違いがありました。受給生は9名で総額7500ドルです(敬称略)。Kristin Tomiye-Asami Ou(フラ神学校)、Mitsunari Nakashima(同)、Jennifer Ikoma Motzko(マッコミック神学校)、Ken Hiramatsu(アズベリー神学校)、Yukari Hata(ゴードン・コンウェル神学校)、Seiichi Yaginuma(トリニティ福音神学校)、Kyoko Murata(アズベリー神学校)、Arthur Wolf Rouzr(フラ神学校)、Yuko Unehara(ドルー神学校)

◇愛修会のお知らせ◇

愛修会が今年も10月8日(土)から9日(日)午後まで1泊2日の予定で行われます。今回はストーニーポイントではなく、紅葉の美しいワーウィックのリトリートセンターで開催する予定です。特に講師の先生はお招きせず、教会員同士で祈り、信仰について分かち合う時を持つことにより、教会、また各自の将来のために備えて行くプログラムにしたいと思えます。心落ち着かない日常を

日米合同教会月報73巻2011年9月号

離れ、自然の中でイエス様に集中するひとときを体験しましょう。費用は、宿泊並びに3食で1人部屋211ドル、2人部屋は1人122ドルです。バス代は1人30ドルで、後は教会が負担します。社交室にサインアップシートがありますので、お早めに名前を記入して下さいようお願いいたします。なお、9日にはJAUCでは礼拝は持たれない予定ですのでご注意ください。

◇メンバー関連◇

■**洗礼・転入会** 菅原知子姉が7月17日の礼拝で洗礼を受けられました。おめでとうございます。菅原姉はアルファコースを通じてJAUCに通われるようになりました。また、7月24日の礼拝で武重梅子姉が転入会されました。武重姉は消化器系専門のお医者様です。心より歓迎いたします。

■**結婚式！！** 福永拓実兄と三上直美姉の結婚式が8月27日(土)午後、鈴木有郷先生の司式でJAUCで行われました。当日はハリケーン接近のため正午で地下鉄・バスが不通になるという困難な状態でしたが、40名以上の方々が出席。式後、社交室でレセプションが持たれ、三上姉の御姉妹のエリカ・シュワネック



姉、福永兄の親友でミシシッピのジャクソン日本語教会で牧師をされている伊藤真人師、2人の出会いのきっかけを作られた本屋敷美紀姉、また日下部ディーン兄がスピーチをされました。オルガン演奏は熊田法子姉、デコ

レーションはクラーク英香姉が担当、ウェディングケーキは鈴木エリザベス姉の手作りです。◆鈴木有郷先生ご夫妻のご長男ジョナサン兄が8月26日、カズコ・リンダ・サカモト姉と結婚されました。◆JAUCで洗礼を受けられ、現在はリディーマー教会のメンバーであるピアニストの田中友樹子姉が8月20日、NJでミレン・パブロフ氏と挙式されました。9月17日(土)午後2時半よりJAUCでもお祝いの会を行います。

■**本屋敷ご夫妻の訪問** 東京の本屋敷一彦兄・美紀姉ご夫妻が8月、JAUCを訪ねられ、教会員一同と旧交をあたためました。

◇英語讃美歌集の背景◇

新しい英語讃美歌の背景 [鈴木エリザベス姉記、鈴木先生記]: 2010年の10月、日米合同教会は、合同メソジスト教会の讃美歌125冊を献納しました。◆聖書には神に賛美の歌を捧げよと記されています。賛美の歌は時代を経るごとに複雑になり、訓練された修道士によってのみ歌われる時代がありました。しかし16世紀に行われた宗教改革の目的の一つは、讃美歌や礼拝

を少数の専門家の手から普通の人々の手に移すことでした。この時代の讃美歌はすべて詩編から取られていました。讃美歌136番の「主は我が牧者」はその良い例です。18世紀になると、メソジスト教会の創立者のジョン・ウェスレーとその兄弟チャールズ・ウェスレーが、普通の人々の感情を高揚させる言葉とメロディーを使った讃美歌があるべきだと主張しました。この主張は人々に強い影響を与え、メソジズムの重要な要素となったのです。その後メソジスト派の人々が「讃美歌を一生懸命歌う人」という名称で呼ばれるようになった所以(ゆえん)がここに 있습니다。

◆日本語の讃美歌はその名の通り賛美の歌を集めたものですが、合同メソジストの讃美歌は、礼拝の本でもあります。初めに聖餐式の式分や洗礼の式文や誓約が収録されています。葬儀や結婚式の式文や詩編で構成された交読文、それに信仰告白文は、讃美歌の後半にあります。またこの新しい讃美歌はこれまでの讃美歌と同じようにチャールズ・ウェスレーが1739年に作詞した”O For a Thousand Tongues to Sing”を讃美歌1番に入れています。チャールズの作詞は17節までありましたが、この讃美歌は7節から始まっています。◆讃美歌の後ろにある索引は、讃美歌をトピックや聖書の箇所、作詞家や作曲家に分類されています。曲名や曲のタイトルも調べることができます。讃美歌には英語圏のものでない曲も多く使われているので、曲名は大切な資料です。JAUCで行われた新しい讃美歌ワークショップでは、これを個人が黙想する時や祈る時に大いに助けになることを多くの皆様に知って頂くことができました。まだ新しい讃美歌をお持ちでない方は、教会のオフィスを通して購入できます。

◇地域教会ネットワーク◇

■**VIP集会** 9月12日のVIP集会では、近く按手礼を受けられる伊与田昭夫先生がお話しされる予定です(午後7時15分より)。なお8月1日の特別集会ではミッションバラバの井上薫先生が、同8日の例会では黒田朔先生が話されました。

◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリ、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、保坂田鶴子、湯沢ジョージ・キミ諸兄姉

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェローシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

SG 1. 女性信徒の学び会(ハイリング) 第2、4土1時 園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会 第2火11時 日下部姉宅

日米合同教会月報73巻2011年9月号

- SG 3. 男性信徒の学び会(ハイリソガル) 第2、4日9時半 教会(日下部兄)
- SG 4. 日本語での学び会 第2日2時 教会(春日姉)
- SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 第4日2時 教会(小林姉)
- SG 6. 日本語「証しと祈りの会」 毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
- SG 7. 英語での学びの会 毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)